



KOBE 2024 世界パラ陸上競技選手権大会

2024. **5.17** Fri - **25** Sat
神戸総合運動公園ユニバー記念競技場

2024年、世界パラ陸上競技選手権大会が神戸に

世界パラ陸上競技選手権大会は、国際パラリンピック委員会により創設された世界最高峰のパラ陸上競技大会です。1994年ドイツ・ベルリンで第1回大会が開催され、2011年ニュージーランド・クライストチャーチでの第5回大会から、2年ごとに開催されてきました。第10回大会は神戸で2021年に開かれる予定でしたが、新型コロナウイルスの世界的な流行で2度の延期を余儀なくされました。そしてついに2024年5月に、東アジアで初めて神戸で開催されます。障がい者と健常者が一緒になって、『東京2020パラリンピック』における感動やパラスポーツへの関心の高まりを次代に“つなげ”、スポーツを通じた 交流の輪を“ひろげ”、障害者をはじめ誰もが暮らしやすいまちづくりを“すすめる”、大会を目指しています。

開催都市 神戸

神戸は、日本を代表する国際貿易港として栄えてきた港町です。1868年の“神戸港”開港以来、国内各地と諸外国を結ぶ玄関口として発展し、その積み重ねから独自の開放的で明るい、進取の気風が脈々と息づいてきました。1995年の阪神・淡路大震災でまちは甚大な被害を受けましたが、国内外からの支援を受けて復興を果たしました。近年ではiPS細胞を用いた世界初の網膜シート移植手術の実施、メディカルクラスター（高度専門病院群等）の形成、スパコン「富岳」の稼働など様々なプロジェクトが進み、新たな成長を続けています。

大会名称

正式名称：神戸2024世界パラ陸上競技選手権大会

英語名称：Kobe 2024 Para Athletics World Championships



©日本パラ陸上競技連盟

開催時期

2024年5月17日（金）～25日（土）

参加選手数（見込み）

約100か国・地域、約1,300人

種目数（見込み）

約170種目

競技会場

神戸総合運動公園ユニバー記念競技場（神戸市須磨区）

会場となる「神戸総合運動公園ユニバー記念競技場」は、1985年のユニバーシアード神戸大会にあわせて建設された日本有数の総合競技場です。1989年のフェスピック神戸大会においても会場として使用されました。



大会基本理念

神戸大会は、3つの「基本理念」を掲げています。

基本理念

TSUNAGERU つなげる – パラリンピック・ムーブメントの継承とパラスポーツの振興 –
東京2020パラリンピックにおける感動や興奮を継承し、パラスポーツへの関心を高める。

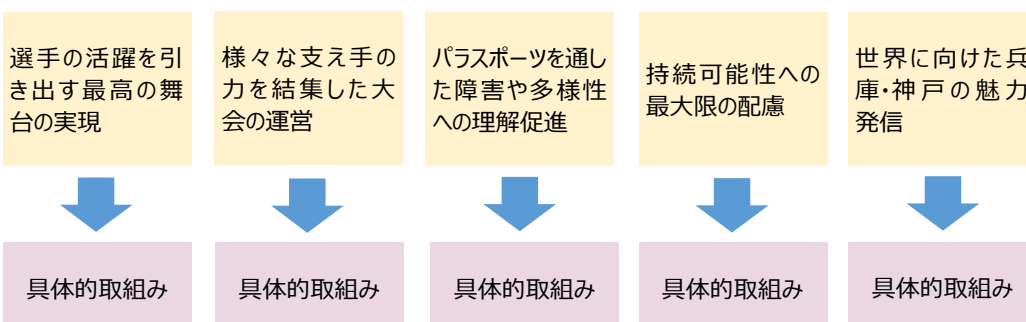
HIROGERU ひろげる – 国際親善の促進 –
『国際スポーツ都市神戸』を世界に発信し、スポーツを通じた交流の輪を広げる。

SUSUMERU すずめる – インクルーシブな社会の実現 –
本大会をきっかけに、障害者をはじめ誰もが暮らしやすいまちづくりを進める。



また、「基本理念」と、個別具体的な「取組み」の橋渡しをするため、「5つの柱」を設定。相乗作用を通して大会理念の実現を目指します。

基本理念の実現に向けた5つの柱



神戸大会を支える5つの柱

神戸大会では、「5つの柱」に沿った明確な目的意識のもとで、具体的な取組みを展開することにより、大会価値の最大化を図ります。

1 選手の活躍を引き出す最高の舞台の実現

大会の主役である選手のため、施設設備の整備や最新の知見を取り入れた競技運営はもちろん、選手と観客が一体になれる会場づくりなど、選手の活躍を最大限に引き出す最高の舞台を実現します。

〔具体的な取組みの例〕

- 競技・練習会場の改修
- パラ陸上競技用設備の新設
- 東京2020を経験した人材による医療サービスの提供
- 選手と観客が一体となって盛り上がる効果的な会場演出



2 様々な支え手の力を結集した大会の運営

支え手として大会に関わった人々の記憶は、大会の貴重なレガシーとなります。神戸大会は、年齢や性別、国籍に関わらず広く参加を呼びかけ、市民をはじめ、多くの人々の力を結集して成功を目指します。

〔具体的な取組みの例〕

- 大会運営に携わるボランティアの募集と育成
- 地元の学校等と連携した応援プロジェクトの実施
- 機運を醸成する戦略的なプロモーション活動の展開
- 協賛や寄附を通じた支援の呼びかけ



3 パラスポーツを通じた障害や多様性への理解促進

市民、とりわけ次代を担う子どもや若者にとって、障害や多様性への理解を深める契機となるよう、パラスポーツの応援やパラアスリートとの交流の機会を広げ、インクルーシブ社会の実現につなげていきます。

〔具体的な取組みの例〕

- パラアスリートによる体験型授業の実施
- 学校連携観戦の実施
- 地元の学生による競技用器具の製作



4 持続可能性への最大限の配慮

神戸大会は、環境負荷低減の取組みをはじめ、アクセシビリティの確保や、多様性に十分配慮した運営を行います。

〔具体的な取組みの例〕

- アクセシブルな会場設備の整備
- 環境への負荷が少ない運営
- 多様性への配慮



5 世界に向けた兵庫・神戸の魅力発信

世界各地から兵庫・神戸を訪れる人々にまち・人・文化の魅力を発信します。兵庫・神戸での体験やおもてなしを通じて、日本の魅力を感じてもらえるよう取り組みます。

〔具体的な取組みの例〕

- 会場周辺での観光案内・物産の展示販売（マーケットストリートの設置）
- 地元産農水産物を活用した食事の提供
- ユニバーサルツーリズムの発信



神戸大会とSDGs

神戸大会は、「5つの柱」の実践を通じて、SDGs（持続可能な開発目標）への貢献を目指します。



神戸2024世界パラ陸上競技選手権大会組織委員会
(神戸市文化スポーツ局国際スポーツ室内)
〒650-8570神戸市中央区加納町6-5-1
<https://kobe2022wpac.org/>